

… 雨でも休まず：第127回、128回 …

「若柳・嵐山の森」から

- 活動1：森林整備に重点：4月 3日（第一土曜日）
 - * 弁当持参、参加費300円。
- 活動2：里山交流の活動：4月18日（第三日曜日）
 - * 主食のみ持参/土地の旨い副菜を準備しておく。参加費500円
森林整備班は、奥山に入る。弁当持参。 … 参加費300円
会員募集/会員以外は、 … 参加費700円。
 - * 第8回：緑のダム体験学校開催/ますます面白くなる、為になる。
- ◎ 必ず申込要：ボランティア保険加入など：T&F:03-3411-1636
- 初参加：JR相模湖駅前：9時15分まで。連絡：090-7260-8101(緑のダム)
- 服装：汚れて良い格好・着替え ④ 足元の滑らない履き物
- 持参品：保険証の写し。作業を楽しむ“ゆとりと怪我をしない心構え”。
- 恒例：やまなみ祭り：4月28日：準備、森泊まり。29日
無料参加、新緑のみどりの日：相模湖町主催のこの祭りは、素晴らしい。

… 小仏峠～笹子峠をつなぐ …

甲州古道の復活

昨年3月、相模湖町から域内の甲州街道の道標制作依頼を受けた。設置場所を相談している内に「いっそ、大月の笹子までを繋いでしまえ」と乱暴な事を言い出したのは誰だっただろうか。

たちまちに、「相模湖町～藤野町～上野原町～大月市」の有志が集まってこの3月、1年で全行程を調査しながら歩き通してしまった。藪の中から忽然と現れる古道や単線当時の廃線鉄路など毎回、驚きの連続であった。この活動は各町行政、JRなどが知るところとなり提携して本格的に保存しようと言う動きになりつつある。

古道を歩いた地元の仲間が素朴に言い伝えを案内してくれたのが、このような結果に繋がっているように思う。古道の有りのままを歴史・文化に残したいと思う。

● 活動報告1：森林整備に特化の日／第一活動日／3月6日（第一土曜日）

夜半、雨音で目が覚めた。「明日は、雨か」。

小雨の朝、森に向かった。大垂水トンネルを抜けると霧が徐々に晴れて相模湖駅では晴天が広がっていた。31人の仲間と相模湖町から9人、40人が森林整備と“町の花一杯”の2班に分かれて取り組んだ。快晴・風つよし。少し遅れてWWF（世界自然保護基金）の職員3人が参加した。

- ・ 丸茂・清水仲間が指揮する“造園班・町の花いっぱい推進班”は、苗床から桂・栃・百日紅などをそれぞれの場に移植した。栃が未だ残っているが森林整備班が“受け森準備”を進めている。
- ・ 森林整備A班は、協力協約C地区の追い込み・枝打ちの仕上げに入った。C地区は、東海自然遊歩道沿いであって時々、ハイカーも通る。そのハイカーたちが興味あり気に眺めながら通るが、今一步踏み込んでくれない。少し遅れて来たWWFの職員3人(榎・瀬・郷)に田野口・清沢仲間などが「視察・調査など後々」と6mの枝打ちを強要し下から気合いを入れていたが、この3人も結構楽しんでた。協力協約C地区整備は、契約通り今月末、県との約束が果たせそうだ。
整備B班は、C地区東側の蔦の絡まる崩壊跡地ジャングルの整理に取り組んだ。根の張る栃を移植して植える計画。大日向副隊長が「ここは広いので整備には、相当の時間が必要だろう」と報告した。

* WWF (World Wide nature of Fund : 世界自然保護基金)

世界の自然を守るため活動する国際的な環境NGO：英国エジンバラ候総裁。当会は、WWF・Japan：世界自然保護基金日本委員会（日本：皇太子総裁）の支援を受けて1998年に活動を開始したが今回のWWF職員の参加は、環境に熱心な企業の森林体験のフィールドの現場を探すため。

* 運営会 … 4時から桂北公民館。森林作業の疲れにむち打って…でしょ。園田隊長？。

1) 疲れていた筈の園田隊長がムックリと起き上がったの檄は、以下の通りであった。

「この森での意味は、本来あるべき森林の姿に戻す事が目標、問題は、後世に何を残すかだ。そのイメージを皆んなで考えよ」と獅子の声で吠えた。

2) 「緑のダム体験学校」の斉藤校長の“思うように参加者が集まらない”の悩みを森仲間たち打ち明けた。仲間たちは、沢山の提案と協働を約束した。運営会に参加したWWFの職員も積極的に発言・提案・参加してくれた。MLでも沢山の意見・提案が行き交っている。

3) 生態系調査／FSC推進班の林仲間が「保全する森・利用する森」の考えで進めている森林地図作成状況を説明した。7月までに終了の目標。

● 活動報告3：里山交流の日 第二活動日／3月21日

この数日、肌寒い雨模様が続いて活動日の天気を心配したが杞憂に終わった。森は小春日和で67人

が集まった。最近特に、若い参加が急増している。

森林整備班は、18人が参加し協力協約の森整備の仕上げと崩壊跡地の整地に取り組む。

跡地は、12年前の大雪のため地滑りを起こした目も眩むばかりの急斜面。ここを園田隊長と大日向副隊長の慎重にして大胆な指導で整地が進む。ここには、根を張るトチの木を移植する。

基地では、鍋奉行班がお昼に美味しいものを食べさせたいと奮闘していた。結果、この森の中で80人分作ったビーフシチューが67人の胃袋に入った。

加藤仲間が亭主する



緊急手当て講習会



小沼千佐子看護師

さて、毎年、春恒例の“森林庭園のお茶会”は、白梅満開の中、加藤ご夫婦のお点前でお昼休み後、ユッタリと催された。意外や意外、高校生や大学生13人全員が“カシコマッテ”参加した。しかも、お抹茶のお代わりが出ていた。下手な俳句らしきものを披露した仲間もいた。“森づくり ある晴れ日の 野点かな” … お粗末。

作業を早めに済ませて「安全講習会」は、看護師資格：小沼千佐子さんの「安全の心得、緊急連絡網、応急手当てなど」真剣なご指導に参加者全員が

緊張して聞き入った。その雰囲気は、正さに“真剣を取る”緊張の30分であった。

- * 役員会：定款16条に役員任期を2年と定めている。3月末で全役員が退任する。組織・活動が硬直化しないためにそうになっている。改めて役員を選任するが先ず、退くもよし退かざるもよし、活動のために役に立ちたいと思う前役員は自己申告で再任を申請できる。前役員は全員、引き続き引き受けると申告した。同日、継続が役員会で決まった。現在の活動が認知された証拠。

◎ その他の報告

1、県議会/環境農政常任委員会；聴聞会：2月25日

5ヶ年計画で検討してきた「水源環境の保全・再生」に付いて「生活環境税制専門部会」から昨年7月に報告書が出て県は各地：津久井、横須賀など22回の“県民集会”で情報公開した。これ

に対して森林の再生に使命感を感じている森仲間が各所集会に出没し沢山の意見・提案を述べた。それを9項目に取りまとめて森仲間5人と上記の委員会に公開質問と対策を提案した。

この政策で最も心配なのは、政策に「自助努力による森林の持続性・経済性」が盛り込まれていない事だ。上記の常任委員会は、真剣に当会の主張を聞いてくれた。今後、県議会で審議される事になると思うが傍聴して結果を見届ける。森林仲間も参加されたい。日程は、MLで連絡する。

2、新・丹沢大山自然環境総合調査：2月29日

神奈川県自治総合研究センターに於いて、木平座長(財団・林業協議会)とし 1) 生き物の再生 2) 水と土の再生 3) 地域の再生 4) 情報整備 5) 広報・啓発の5つのテーマに分かれてこれまでの調査結果と今後の予定について発表した。森林に関わる学者、NPO、一般市民参加の真剣で内容のあるシンポであった。県の進める「水源環境の保全・再生政策」を見据える検討会で環境農政部(顧問)が担当部署。森林問題なのに何故、公園を管理する緑政課だろうか。

この中で当会の主張する 3) 水源地域の再生班に「森林の経済性」が取り入れられており、これに対する会場からのNPO等、協力・参加の声が大きく先に希望の持てる参加となった。

3、県森連(神奈川県森林組合連合会)と提携話し進む

未だ非公式ながら神奈川県森林組合連合会と当会；NPO法人緑のダム北相模との業務提携の話しが進んでいる。5年前知り合った、林業センターの所長をしていた井手さんが県森連の総務部長になった事から交流が頻繁になって互いに事業の接点を検討していたが、県との協働や県民集会などでの当会の実績を評価してくれて話しが急速に具体化してきた。先ず、当会の持つGIS、GPS技術による森林簿作成から協働事業を始めようと言う事だ。慎重に考えて進める。

無事、帰還；月尾先生

年中、風速25m以上の暴風の吹き荒れる南極と南米のホーン岬を独りカヤック通過した月尾先生(東大教授・元総務省審議官・当会評議員)が無事、元気に帰還した。4月にNHKが特別番組放映。去る10日午前、銀座の月尾事務所を訪問ししそれを祝った。祝った上で、GISのご指導などいろんな事をお願いした。これに取り組む篠田仲間を同行した。

国産材シンポジウム

12日、新木場ホールで林家から消費者まで幅広く約250人が集まった。大熊先生(東大名誉教授、木材技術センター)の基調講演と住宅現場各界で活躍するパネラーの真剣さと業界の問題点、森林が直面している苦悩と矛盾

古道：JR東日本と提携話し

来期4月からの古道活動として日本総合研究所を通じてJR東日本と話し合う事になった。

9日、相模湖町(中里)、藤野町(西村)、上野原町(井田)大月市(西)、緑のダム(藤・研)が八王子支社/販売促進課と話し合った。

この管内では、25回/年の駅からハイキングを行っており非常に興味を示してくれ、ルート図を提出し今後を話し合う事となった。

生活者消費者展：相模原市

13日~14日、相模原市橋本駅前サティで開催。流域協議会、神奈川県建具組合と協働した。出し物は、活動パネル・ベンチ・テーブル・生態系報告書・兼松人形など。例のごとく鋸引き体験檜皮むきには、列が出来た。

に事の重大さ複雑さを思った。

森林仲間からは大坪さん、藤島さんなど8人が参加した。

森林仲間からは、成瀬さんなど7人が応援に駆け付けてくれて、出し物の搬出入や活動のPRなど大いに助かった。

- **環境財団**（損保ジャパン）：安田グループで構成する損保ジャパンからはエコ青年隊との協働や活動資金など、お世話になっている。去る16日、大手町の本部で安田グループOB会で当会の活動を紹介した。これに宮島・兼松・斉藤仲間の参加で生の森林活動状況を広報した。OBの皆さんは、感動していた…ように思う。感動していないで“森に来いよ”と言ってしまった。後で聞くとそうそうたる財界人が在席していたらしい。

● 当会の組織は、ネット系構造

当会の活動に参加する人には、他人に迷惑を掛けない事、怪我は自分の責任、それ以外に何の制約もない。来てみて気にいったら来れば良いし、気にいらねば来なければ良い。自分が責任を感じずる程度に責任役割を果たせば良い。上下関係は全くない、それぞれがフラットに繋がり何か活動テーマが見つかったら自然発生的に「この指、止ま〜れ」でプロジェクトが出来ればよい。

現在、九つの活動班が出来ている。その活動は一見、バラバラに動いているように見えるが核（思想と人）となるものが有って、その核を中心にパラレルにフラットに円となって等距離を保ちながら活動している。仕切り屋もいない。こんな自由さが参加の増える理由と思う。この6年、一度も争いが無く平和に活動している大人の集まりなのだ。

● 神奈川TV：緑のダム体験学校

斉藤仲間が中心になって神奈川県／企画部と協働している「緑のダム体験学校」は、定期的に神奈川TV（KTV 14ch）が放映してくれている。今回は、3月30日午後23時55分から。その原稿が送って来た。東京地区の仲間にKTVの放映内容を音声で紹介する。

今晚は、石川みゆきです。今日は、「緑のダム体験学校」のご案内をします。

森林には、多くの働きがありますが、その一つが沢山の雨水を土の中にしみこませ、一気に流れださないようにする事。「緑のダム」と言われる由縁が、ここにあるんですね。

この「緑のダム」について、もっと知ろうと4月18日（日）体験教室が開かれます。

当日は、JR「相模湖駅」に午前9時15分に集合、相模湖畔の嵐山周辺に向かいます。

緑のダムは、針葉樹や広葉樹など様々な種類の樹木でつくられています。教室では、実際に木に手を触れながら樹木の見分け方、名前覚え方、そして図鑑の見方などをお話します。

また、森林を育てるために最も必要とされる「間伐作業」も体験します。この体験で、一本の木の歴史までも分かるんですね。

この他、昆虫や小動物など森の生態系の調査や、水が土に浸み込む状態を調べる実験もします。

小学4年生以上の方ならどなたでも参加できます。参加費は2000円、ただし大学生以下は1000円です。お申込は、4月9日まで往復はがきで、どうぞ。

詳しくは、NPO法人 緑のダム北相模事務局。電話03（3411）1636へ、どうぞ。

事故事例：

作業班4名で林道整備に従事していた。林道山側法面の被さっている根起き風倒木（樹高14m、径40cm）を除去するため、被災者が林道山側法肩の岩場7mほど登りチェーンソーで切り離していたところ、根株が2mほど滑落し、反動で玉切った材が上部に浮き上がり、岩の隙間で作業していた被災者は逃げられず、岩と玉切材の間に挟まれて圧迫され死亡した。

… 事故は、全く予想の付かない状況で起こる。万全を期して貰いたい。

小原宿の宿駅としての役割

小原宿は公衆道中江戸の14番目の宿駅で、険路小仏峠を控えた要害地でした。街道両側の敷地割りは計画的に行われ、短冊形に奥行きをほぼ一定とし、間口に違いがありました。小原宿もたの宿場と同様、宿出入り口は升形に屈曲し、宿内を見と通せないようになっていました。

小原宿は、1604年には伝馬屋敷があり、公衆道中が設置され機能していました。伝馬屋敷は伝馬役がいて人馬継立てを行っていました。小原宿は一村を成す与瀬宿を合わせて一宿の機能を持つ合宿でした。小原宿は武蔵野の駒木野宿または小仏宿から継ぎ送られてきたものを、与瀬宿を越えて吉野宿へ継ぎ立て、与瀬宿は甲州方面の吉野宿から継ぎ送られてきたものを小原宿を越えて小仏宿に継ぎ立てました。このように小原宿と与瀬宿を片継宿場と言いました。

小原宿は、建坪83坪の本陣と脇本陣と7軒の旅籠がありました。脇本陣は当初は宿中程にあったが、後に本陣の側の家が役割を担っていました。

なお、1843年（天保14年）の改大概帳によると小原宿の石高は178石6斗2升4号5勺町並2町半、江戸まで15里21町、吉野宿へ1里7町28間、小仏宿1里22町でした。宿内61軒（枝郷の底沢、中野を含む）町並は29軒でした。宿内人別は275人（男151、女124）、宿入り口高さ1丈、長さ3間2尺、横1間の高札所もあり、吉野宿までの駄賃と人足賃銭が掲示されていました。

人馬継立てや休泊に関する業務を司る問屋場は、宿入り口にあり問屋一人、年寄り6人がせいしました。常時人馬は25人25疋がおかれしました。用水や飲料水は桶谷路沢より懸桶で引き供していました。

往時の産業は、旅籠屋のほか茶店、商売屋があり、男は往還稼ぎ、山仕事や炭焼き、女は蚕を飼い紬を織っていました。今回は、小原宿本陣について紹介します。（文責 中里）

- | | |
|--|--|
| 1) 4月3日(第一土曜) 森林整備
作業終了後、運営会 | モットー／休まず、無理せず、急がず、楽しく、ポチポチと…
そして、沢山のご意見、参加下さい。 |
| 2) 4月18日(第三土曜) 里山交流
F S C 勉強会 | 名 称／さがみ湖・森づくりの会(NPO法人緑のダム北相模/森林部会)
事務局／〒154-0023 世田谷区若林3-35-9 |
| 3) 4月28日 祭り準備の準備
29日 やまなみ祭り | T & F 03-3411-1636
協働団体／セブーンイレブンみどりの基金 |
| HP : http://www008.upp.s-p-net.jp/kitasagami | |